

佐藤薫会員 紫綬褒章受章

佐藤 薫会員 (東京大学理学系研究科教授) が、学術、芸術等での業績の著しい方を対象とする紫綬褒章を受章されました (2021年4月29日発令)。

佐藤会員は、これまで一貫して、観測、数値モデリング、理論的考察を自在に駆使して、大気力学上の様々な問題に対し、顕著な研究成果を挙げてこられました。また、南極への大型大気レーダーの設置と観測、高解像度大気大循環モデルによる中層大気の研究というプロジェクトを立案、牽引して、多くの優れた研究者を育てました。その顕著な功績により、多くの賞を受賞されています (1991年度山本・正野論文賞、1998年度日本気象学会賞、2014年度文部科学大臣賞、2015年第8回海洋立国推進功労者表彰 (内閣総理大臣賞)、2018年度藤原賞など)。

佐藤会員の最初の大きな業績は、大学院時代から取り組んでいる、大気重力波の研究です。京都大学超高層電波研究センターが開発し信楽に設置した大型大気レーダーである MU レーダーの観測により、対流圏・成層圏の重力波の空間構造・周期特性などを明らかにし、その起源を特定しました。以来、ラジオゾンデ観測、大気大循環モデル、卓越した理論的洞察などに基づく研究により顕著な業績をあげています。その成果は国際的に大きな影響を与え、国際的な学術団体の科学運営委員や重力波研究グループのリーダーを歴任し研究の流れをリードしています。

佐藤会員は、京都大学から国立極地研究所に異動した1999年末より、南極の昭和基地に大型大気レーダー「PANSY」の建設を提案し、極域科学・気象学・超高層大気物理学・レーダー工学の研究者が参加する学際的なチームを率いて実現にこぎつけました。南極唯一の大型大気レーダーで対流圏から電離圏まで観測できる PANSY レーダーによって様々な新発見がもたらされ、論文が続々と発表されています。PANSY プロ

ジェクトと並行して、佐藤会員の知見をもとに調整した鉛直・水平に高分解能な大気大循環モデルを用いて中層大気を研究する「KANTO プロジェクト」を立ち上げました。参加した若手研究者らによる高インパクトな論文が多数発表され、気象学会賞 (渡辺会員・河谷会員、2017年度) などの受賞ももたらしています。また、京都大学ならびに東京大学 (2005年着任) にて多数の学生を指導し、教え子たちが活躍しています。佐藤会員の研究対象は、重力波だけでなく多岐におよび、学生の研究もそれを反映し、対象も手法もバラエティに富んでいます (多数の中から例を選ぶのは心苦しいですが、対流圏の中間規模波動、波活動度の理論や、全中性大気データ同化など)。

プロジェクトリーダーとして、多くの学生を指導する教授として活動し、そして未だ少数にとどまる女性教授として恐らく男性教授よりも多くの委員等を引き受けながらも、研究推進・共同研究活動とご自身の研究活動を両立されているのは、驚異的です。超人的ですらありますが、同僚や後進を気遣い、楽しそうに研究について議論される様子は、(私だけでなく) 多くの方の理想になっているのではないかと思います。2020年5月に日本気象学会理事長に選出されると、早速何年も懸案となっている学会の財務改善のためのワーキンググループ (WG) を組織し、ウィズ/ポスト・コロナ時代の大会のあり方検討 WG を立ち上げられました。私も一部参加しておりますが、リーダーにかじ取りをまかせながら要所でサポートする様は見事で、気象学会は、この困難な時代を乗り切るのに最適な、しなやかで思慮深いリーダーを得たものと思います。益々お忙しくなりそうですが、過労にお気をつけて、常々大好きと公言されている研究と楽しい議論を続けられることを祈念いたします。おめでとうございました。

(北海道大学 堀之内 武)